

脳血流シンチグラフィ

○ 核医学検査(RI検査)とは？

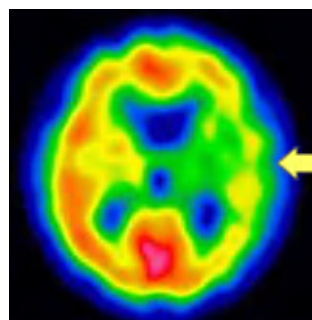
核医学検査(RI検査)とは、ガンマ線という放射線を放出する検査薬を注射し、臓器や病変部に取り込まれた検査薬から放出されるガンマ線をカメラで撮影し、体内の情報を得る検査です。投与される検査薬から放出される放射線は極めて微量で、副作用も心配ありません。検査薬は、速やかに自然な排泄作用によって、体から除去されます。

○ 脳血流シンチグラフィ(脳血流 ^{スペクト}SPECT検査)とは？

脳血流検査では、脳の各部における血流状態や脳のはたらきをみるための検査です。脳の形態を見るエックス線 CT や MRI では、とらえられない早期の脳血流障害の検出、神経症状の責任病巣の検出、脳の機能の評価などに有効です。

○ 検査前と検査終了後の注意点は？

食事や飲み物の制限はありませんので直前の食事がかまいません。
また検査前後も普段どおりお過ごし下さい。



脳血流シンチの画像
矢印の部分で血流の
低下が認められます。

検査の方法と流れ

- 1.検査ベッドに休み、頭部を軽く固定します。
 - 2.点滴から検査薬を静脈注射します。
(1.5ccから3.0ccのわずかな量です。)
 - 3.注射直後より撮影を開始します。撮影の間は、リラックスして動かないようにしましょう。
- * 検査の目的によっては、脳の血管を拡張させる薬を、検査中に点滴から投与する場合があります。負荷検査といい、薬による血流量の増加をみるために行います。
 - * 検査中はアイマスク(目隠し)をつけていただきます。目をあけていると、脳血流量が正確に測定できないからです。

検査時間は約 30 分です。負荷検査を行う場合は 60 分です。

妊娠中、妊娠の可能性のある女性、授乳中や乳幼児がいる方はあらかじめ医師にお知らせ下さい。

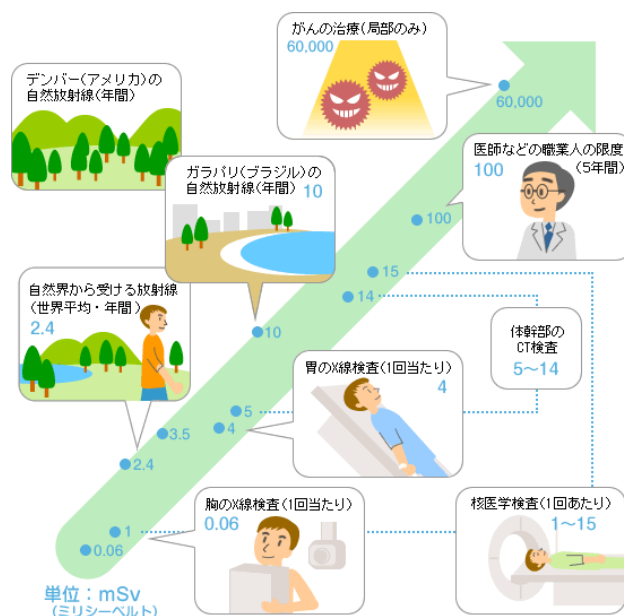
【脳血流シンチグラフィ Q&A】

Q. RI 検査薬の副作用はないの？

A. どんなお薬にも副作用はつきものですが、脳血流シンチグラフィに使われる検査薬の量は 2～4cc とわずかな量であり、RI 薬品製造会社の報告では 4047 件検査を行って、わずか1件(0.02%)しか起こっていません。その副作用は嘔気でした。万が一副作用が起こってしまった場合、迅速かつ最善の処置を行いますので安心して検査を受けてください。

Q. 被ばくはどれだけの？

A. 核医学検査では検査の種類によって 1～15 ミリシーベルトの被ばくが生じます。脳血流シンチグラフィでは 1～2 ミリシーベルト程度の被ばくとなります。一方、病院で受ける検査による被ばく以外にも、下の図のように普段生活しているだけでも被ばくが生じています。1年間普通に生活しても、自然界から受ける被ばくが約 2.4 ミリシーベルトとなっています。この被ばく線量で、身体に影響が出る事はありませんので安心して検査を受けられて下さい。



参考資料：日本メジフィジックス株式会社ホームページ
核医学検査の安全性

<https://www.nmp.co.jp/member/kakuigaku/safe.html>